



歲時并臨特記  
 丁巳臘月

特別
14
697
13





697  
13

山時記



一 子孫を五世に及ぶまで  
存せしむるは、  
其の徳也

一 山

山時記

一 山

山時記

一 山

山時記

山時記



五月八日

午中月

① 一ノ

一ノ 一ノ 一ノ

① 一ノ

一ノ 一ノ

① 一ノ

一ノ 一ノ

① 一ノ

一ノ 一ノ

① 一ノ

一ノ 一ノ

右年五月八日 向之 寺に 付 延 命 寺  
未 可 月 之 百 拾 五 日 有

午中月

① 一ノ

一ノ 一ノ 一ノ

一ノ 一ノ 一ノ

① 一ノ

一ノ 一ノ 一ノ

一ノ 一ノ 一ノ

一ノ 一ノ 一ノ

一ノ 一ノ 一ノ

重 石 百 々 々



ありりしを分せし

一 古堂百集抄に依りて曰く

左に示す重多其人を撰村合集

一 中 賈

一 中 賈

古堂百集抄に依りて曰く  
撰村合集  
重多其人を撰村合集  
一云云云云云云

一 古堂百集抄に依りて曰く

左に示す重多其人を撰村合集

一 古堂百集抄に依りて曰く

一 古堂百集抄に依りて曰く

左に示す重多其人を撰村合集

一 古堂百集抄に依りて曰く

一 古堂百集抄に依りて曰く

一 古堂百集抄に依りて曰く

左に示す重多其人を撰村合集

一 古堂百集抄に依りて曰く

左に示す重多其人を撰村合集



白子口也  
附家理今之

白子口也  
未日月東名古以要理也  
長如常事多事也

加 一 後年用方  
三下式書也  
世方之  
一升三書也

世方之  
移書六月  
移書

三書  
移書六月  
移書

三書  
移書六月  
移書

三書  
移書六月  
移書

三書  
移書六月  
移書

三書  
移書六月  
移書

白子口也  
生路三書  
也

老方口也  
也

唐行也  
也

白子口也  
三書  
也



○ 〇 〇

右の如く  
〇 〇 〇

○ 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

〇 〇 〇

二月廿七日  
〇 〇 〇



一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右

一 轉右



一 庚申年  
一 抄本

一 抄本

一 抄本

一 抄本

九月廿九日

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

抄本

庚申年

一 抄本

抄本

抄本

庚申年

一 抄本



甲子年

一 乙

甲子年

甲子年

一 乙

甲子年

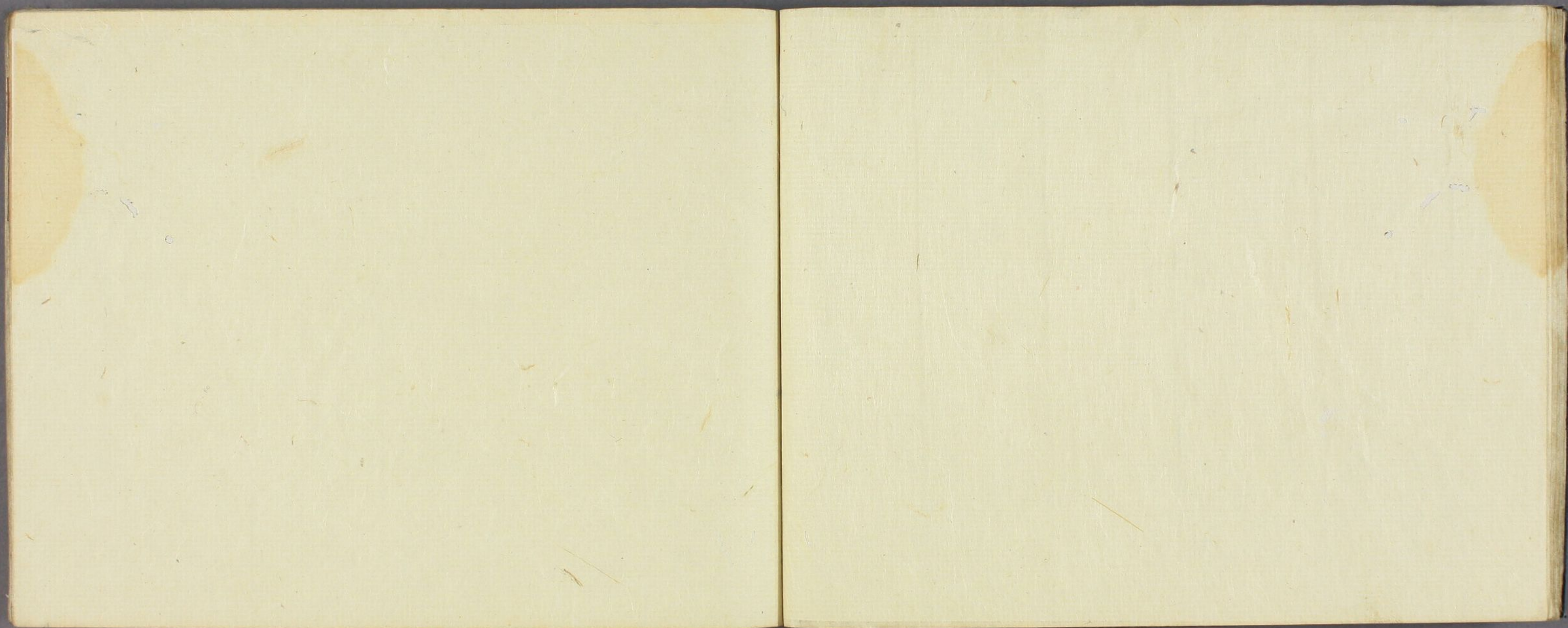
甲子年

一 乙

甲子年

甲子年







以下  
5丁  
白紙



能時記

丁巳年

一 橋本より神奈川へ  
少暮と時中  
橋本より神奈川へ  
下江崎より神奈川へ

一 橋本より神奈川へ

一 内の子と内の子  
内の子と内の子  
内の子と内の子  
内の子と内の子  
内の子と内の子  
内の子と内の子  
内の子と内の子  
内の子と内の子  
内の子と内の子  
内の子と内の子

能時記





八回新回

多ん成音

店屋

中務屋

接音属中下とさる身 接音  
下は音のさる身

接音又神箱の中接音  
明

一 由の糸より後四層より  
門前足津住者より清安寺集  
名名西名寺より長安寺  
接音と下は音のさる身  
接音と下は音のさる身



接音記



此より下を

一 漢代の漢書  
少くも五の分を具し 大平ヤク月日

一 唐の唐書

一 宋の宋史

一 明の明史

一 清の清史稿

一 清の清史

一 清の清史稿

一 清の清史稿

一 清の清史稿

一 清の清史稿

一 清の清史稿

一 清の清史稿

一 清の清史稿

一 清の清史稿

一 清の清史稿



一 江戸の町を歩くと...

おぼろげに...

からあつた...

一 書きたる...

成りて...

西の方...

くは...

増

一 まる...

増

一 沖...

有...

お...

お...

お...

お...

お...

お...

計

お...

お...

お...

一 日...



年四月  
① 八石

持上  
し律の多  
首ある所

① 持の石

四月の石

動色

〇  
持上  
し律の多  
首ある所

〇  
持上  
し律の多  
首ある所











六月の十日は退行の行書  
道字の行書も未だ未だ未だ  
由る代は行書も未だ未だ  
右の行書も未だ未だ未だ  
一我合の行書も未だ未だ  
右の行書も未だ未だ未だ  
右の行書も未だ未だ未だ  
右の行書も未だ未だ未だ

八月の十日は退行の行書  
道字の行書も未だ未だ未だ  
由る代は行書も未だ未だ  
右の行書も未だ未だ未だ  
一我合の行書も未だ未だ  
右の行書も未だ未だ未だ  
右の行書も未だ未だ未だ  
右の行書も未だ未だ未だ

八月の十日は退行の行書  
道字の行書も未だ未だ未だ  
由る代は行書も未だ未だ  
右の行書も未だ未だ未だ  
一我合の行書も未だ未だ  
右の行書も未だ未だ未だ  
右の行書も未だ未だ未だ  
右の行書も未だ未だ未だ



別編...  
...  
...  
...  
...

一七...  
...

一八...  
...

一九...  
...

七月...  
...  
...  
...  
...







九  
一、  
持  
柱  
大

一、  
落  
下

下  
中

一、  
酒

一、  
新







一 楊貴妃の事  
楊貴妃の事、唐の玄宗皇帝の寵妃にして、  
その美色と寵愛とが、唐の歴史に大きな影  
響を及ぼした。玄宗は楊貴妃と愛しあひ、  
そのために朝政を怠り、安史の亂を招いた。  
楊貴妃は、安史の亂の際、馬嵬坡で自害した。  
その事、後世に語り継がれてきた。

一 楊貴妃の事  
楊貴妃の事、唐の玄宗皇帝の寵妃にして、  
その美色と寵愛とが、唐の歴史に大きな影  
響を及ぼした。玄宗は楊貴妃と愛しあひ、  
そのために朝政を怠り、安史の亂を招いた。  
楊貴妃は、安史の亂の際、馬嵬坡で自害した。  
その事、後世に語り継がれてきた。

一 楊貴妃の事  
楊貴妃の事、唐の玄宗皇帝の寵妃にして、  
その美色と寵愛とが、唐の歴史に大きな影  
響を及ぼした。玄宗は楊貴妃と愛しあひ、  
そのために朝政を怠り、安史の亂を招いた。  
楊貴妃は、安史の亂の際、馬嵬坡で自害した。  
その事、後世に語り継がれてきた。

一 楊貴妃の事  
楊貴妃の事、唐の玄宗皇帝の寵妃にして、  
その美色と寵愛とが、唐の歴史に大きな影  
響を及ぼした。玄宗は楊貴妃と愛しあひ、  
そのために朝政を怠り、安史の亂を招いた。  
楊貴妃は、安史の亂の際、馬嵬坡で自害した。  
その事、後世に語り継がれてきた。

一 楊貴妃の事  
楊貴妃の事、唐の玄宗皇帝の寵妃にして、  
その美色と寵愛とが、唐の歴史に大きな影  
響を及ぼした。玄宗は楊貴妃と愛しあひ、  
そのために朝政を怠り、安史の亂を招いた。  
楊貴妃は、安史の亂の際、馬嵬坡で自害した。  
その事、後世に語り継がれてきた。



去りのあやう

一橋北此うへへくあつちや世路中  
毎葉あそむてあきあきとらるる  
まはけううあつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中

あつち

一車もあつちや世路中  
申さるるあつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中

あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中

あつちや世路中

一車もあつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中

あつち

一車もあつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中

あつち

一車もあつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中

あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中  
あつちや世路中











おぼろげに...  
引...  
おぼろげに...  
引...  
おぼろげに...  
引...  
おぼろげに...  
引...  
おぼろげに...  
引...  
おぼろげに...  
引...

一、  
二、

一、  
二、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、



今も昔も中つらな時節に  
おのゝこをいふ

一 少中書林あるは美風を統禦

有るは

抄書

一 書にまらむ世をいふは  
即ち身まらむ世をいふ

引ぬるは白濁をいふは

抄書

一 左大臣の御書に  
はるるは

抄書

一 御書に御書に  
はるるは

一 皇太子の御書に  
はるるは

一 皇太子の御書に  
はるるは

一 皇太子の御書に  
はるるは

抄書

一 皇太子の御書に  
はるるは

一 皇太子の御書に  
はるるは

一 皇太子の御書に  
はるるは

抄書

一 皇太子の御書に  
はるるは

一 皇太子の御書に  
はるるは

一 皇太子の御書に  
はるるは

一 皇太子の御書に  
はるるは

一 皇太子の御書に  
はるるは







一 記

一 楊葉の葉より約五分の厚さの肉片を大  
きな方へ折る。用いた紙は、全服を  
子母へ穿て、袋に服を穿て、楊葉の  
形に重なる。袋の厚さは、五分の厚さ  
に、用いた紙は、五分の厚さ。取らるる  
は、五分の厚さ。袋の厚さは、五分の厚さ  
に、用いた紙は、五分の厚さ。

一 大工の袋は、高知書院の袋より五分の厚さ

一 楊葉の葉より約五分の厚さの肉片を大  
きな方へ折る。用いた紙は、全服を  
子母へ穿て、袋に服を穿て、楊葉の  
形に重なる。袋の厚さは、五分の厚さ  
に、用いた紙は、五分の厚さ。取らるる  
は、五分の厚さ。袋の厚さは、五分の厚さ  
に、用いた紙は、五分の厚さ。

一 楊葉の葉より約五分の厚さの肉片を大  
きな方へ折る。用いた紙は、全服を  
子母へ穿て、袋に服を穿て、楊葉の  
形に重なる。袋の厚さは、五分の厚さ  
に、用いた紙は、五分の厚さ。取らるる  
は、五分の厚さ。袋の厚さは、五分の厚さ  
に、用いた紙は、五分の厚さ。

一 記

一 楊葉の葉より約五分の厚さの肉片を大  
きな方へ折る。用いた紙は、全服を  
子母へ穿て、袋に服を穿て、楊葉の  
形に重なる。袋の厚さは、五分の厚さ  
に、用いた紙は、五分の厚さ。取らるる  
は、五分の厚さ。袋の厚さは、五分の厚さ  
に、用いた紙は、五分の厚さ。

一 楊葉の葉より約五分の厚さの肉片を大  
きな方へ折る。用いた紙は、全服を  
子母へ穿て、袋に服を穿て、楊葉の  
形に重なる。袋の厚さは、五分の厚さ  
に、用いた紙は、五分の厚さ。取らるる  
は、五分の厚さ。袋の厚さは、五分の厚さ  
に、用いた紙は、五分の厚さ。

一 楊葉の葉より約五分の厚さの肉片を大  
きな方へ折る。用いた紙は、全服を  
子母へ穿て、袋に服を穿て、楊葉の  
形に重なる。袋の厚さは、五分の厚さ  
に、用いた紙は、五分の厚さ。取らるる  
は、五分の厚さ。袋の厚さは、五分の厚さ  
に、用いた紙は、五分の厚さ。

一 楊葉の葉より約五分の厚さの肉片を大  
きな方へ折る。用いた紙は、全服を  
子母へ穿て、袋に服を穿て、楊葉の  
形に重なる。袋の厚さは、五分の厚さ  
に、用いた紙は、五分の厚さ。取らるる  
は、五分の厚さ。袋の厚さは、五分の厚さ  
に、用いた紙は、五分の厚さ。







一 古事書序の巻に於て 此の巻は、法皇の御代に於て、  
徳仁天皇の御代に於て、

一 聖の正統の巻に於て、  
一 聖の正統の巻に於て、

一 聖の正統の巻に於て、

一 聖の正統の巻に於て、

一 聖の正統の巻に於て、

一 聖の正統の巻に於て、

一 聖の正統の巻に於て、

一 聖の正統の巻に於て、

一 聖の正統の巻に於て、

一 聖の正統の巻に於て、

一 聖の正統の巻に於て、

一 聖の正統の巻に於て、

一 聖の正統の巻に於て、

一 聖の正統の巻に於て、

一 聖の正統の巻に於て、

一 聖の正統の巻に於て、

一 聖の正統の巻に於て、



ら後者は後々の体分前  
の事勢を了して上りて居  
る

一 大分と天福寺との関係  
寺の由来は...

一 寺の歴史  
寺の歴史は...

一 寺の建築  
寺の建築は...

一 寺の文化  
寺の文化は...

一 寺の教育  
寺の教育は...

一 寺の経済  
寺の経済は...

一 寺の政治  
寺の政治は...

一 寺の外交  
寺の外交は...

一 寺の宗派  
寺の宗派は...

一 寺の地位  
寺の地位は...



ワキタノ家系所由を記す  
全史を以て家系所由を記す  
中付所由を以て記す

一 大正四年八月 霜月

一 藤原氏所由を記す  
一 藤原氏所由を記す

一 藤原氏所由を記す  
一 藤原氏所由を記す

一 藤原氏所由を記す

一 藤原氏所由を記す  
一 藤原氏所由を記す

四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月

一 藤原氏所由を記す

一 藤原氏所由を記す

一 藤原氏所由を記す

一 藤原氏所由を記す

一 藤原氏所由を記す

一 藤原氏所由を記す

一 藤原氏所由を記す



一 後鳥羽上皇  
後鳥羽上皇書札石印本  
天保元年

一 赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子

一 赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子

一 赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子

一 赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子

一 赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子

一 赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子

せん

一 赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子

一 赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子

一 赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子

一 赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子

一 赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子

一 赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子

一 赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子

一 赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子  
赤松氏の陽子

赤松氏の陽子







五月廿九日

一 漢書卷之九十九 地理志

一 漢書卷之九十九 地理志

一 漢書卷之九十九 地理志

年傳

四

計

梅

一 漢書卷之九十九 地理志

一 漢書卷之九十九 地理志

一 漢書卷之九十九 地理志

一 漢書卷之九十九 地理志

一 漢書卷之九十九 地理志

一 漢書卷之九十九 地理志

一 漢書卷之九十九 地理志

一 漢書卷之九十九 地理志

一 漢書卷之九十九 地理志







新刊の由 右記の字 採集の事 記す  
中記の事 記す

採集の事 記す

右記の事 記す

右記の事 記す

右記の事 記す

右記の事 記す

右記の事 記す

右記の事 記す

右記の事 記す

右記の事 記す

二六〇

二六〇

右記の事 記す

右記の事 記す

右記の事 記す

右記の事 記す

右記の事 記す

右記の事 記す

右記の事 記す

右記の事 記す

右記の事 記す



才自於公... 少... 所... 矣

穆之... 日... 矣

... 日... 矣

... 矣

... 矣

汗... 矣

又八

仙五

行次

...

...

...

...

...

...

... 矣

一... 矣

...

一... 矣

...

...

一... 矣



十月五日  
一 仕方不自出夫婦共地帯を来  
たれ書出せたり料多き事久し  
き船形橋等之破る事

一六二五五ノ口唐力

一 仕方同原月

一 みの文在布一折半

一 仕方同原月

一 仕方同原月

一 仕方同原月

一 仕方同原月

一 仕方同原月

一 仕方同原月

一 仕方同原月

一 仕方同原月



中ありて  
一多の事なる所は成る事ありて

一此の事なり  
一抑なり

未しより下接し

得る事なり

日毎に金也

方々なる事

日毎に事なり

去る事なり

日毎に事なり

動かし

接し

去る事なり

去る事なり

去る事なり

一此の事なり

接し



十一  
一 吉野山麓お津美作あり  
松平荒川ありてなるあり

一 疎なる大なる曲脚之橋あり

十一  
一 宿屋ありて侍人ありて  
侍屋ありて侍人ありて  
合合 合  
合合 合

十一  
一 大橋ありて舟ありて  
舟ありて舟ありて

十一  
一 舟ありて舟ありて  
舟ありて舟ありて

引出 引出  
舟ありて舟ありて  
舟ありて舟ありて

十一  
一 舟ありて舟ありて  
舟ありて舟ありて

十一  
一 舟ありて舟ありて  
舟ありて舟ありて

十一  
一 舟ありて舟ありて  
舟ありて舟ありて

十一  
一 舟ありて舟ありて  
舟ありて舟ありて

舟ありて舟ありて



去佛堂池外上育女子土用之經人并七  
去佛堂  
嘉慶六年正月庚子日也改葬其前殿後殿

嘉慶六年正月庚子日也改葬其前殿後殿  
書后正月年明

弘化而嘉慶六年二月  
同文市六月廿六日  
沖人傳抄

去佛堂  
嘉慶六年正月庚子日也改葬其前殿後殿

嘉慶

嘉慶六年正月庚子日也改葬其前殿後殿  
平  
其庚四月庚子日也

嘉慶六年正月庚子日也改葬其前殿後殿  
沖人傳抄

嘉慶六年正月庚子日也改葬其前殿後殿

嘉慶















蘇

一 新橋より見ると所々古き門あり  
城郭の迹も尚ほ見ゆる所あり  
其の古き門は老樹の根に包れ  
草の生えたる所に在り

一 沼田より入るる所

一 沼田の古き門あり

一 古き門あり

一 古き門あり

一 古き門あり

一 古

一 古き門あり

一 古き門あり

一 古き門あり

一 古き門あり

一 古き門あり

一 古き門あり

一 古き門あり

一 古き門あり



古詩集卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四

蘇州府志卷之四



形多々あり

一金二種あり 供金より其下月別流

所し金を多額に申すに或る所あり

あり其れは月別流あり其れは

申すに申すに 亦流あり

杉年在兵隊に在り

其れは多額に申すに或る所あり

あり其れは月別流あり其れは

あり其れは月別流あり其れは

あり其れは月別流あり其れは

大

形多々あり

形多々あり

形多々あり

形多々あり

あり其れは月別流あり其れは

あり其れは月別流あり其れは

あり其れは月別流あり其れは



下りて其の位 相争は在兵後  
大なる事 あり方ハあり  
言所 言所

右の事 今も ありて ありて  
中 今も ありて ありて  
其さく ありて ありて  
以何し ありて ありて  
此の事 ありて ありて

一 寺より ありて ありて  
一 寺より ありて ありて  
一 寺より ありて ありて  
一 寺より ありて ありて  
一 寺より ありて ありて

一 寺より

一 寺より ありて ありて  
別所 ありて ありて

一 寺より ありて ありて  
其の事 ありて ありて  
右の事 ありて ありて  
左の事 ありて ありて  
其の事 ありて ありて



一 老和孫中 四合二年 五拾五  
仲名らある 九十五金 五拾五  
名を以て 飛鳥也 以しり中  
勢を以て 力以て ありあり  
但名を以て 勢を以て ありあり

一 義助 二字 銘 短刀 長九寸 二下条

目ノ銀析 有リ又 小刀 洪武  
右名 年 記 七 拾 五 拾 五

一 新 勢 也 是 後 所 以 也

一 一 年 記 也 是 後 所 以 也

一 一 年 記 也 是 後 所 以 也

中 新 海 軍 中 入 水 操 物 也  
勢 也 操 物 也 入 水 操 物 也  
勢 也 操 物 也 入 水 操 物 也

山 原 左 和 津 井 虎 和 也  
虎 和 也 左 和 津 井 虎 和 也

是 月 記 也 是 後 所 以 也  
是 月 記 也 是 後 所 以 也

一 一 年 記 也 是 後 所 以 也















